

## 小脳と小脳障害・疾患に関心のある全ての皆さまへ

小脳を冒す疾患には多数のものがあ、血管障害、炎症、腫瘍、外傷、奇形などに加え脊髄小脳変性症と呼ばれる多くの神経変性疾患が含まれ、その中には遺伝性疾患も希ではありません。遺伝性疾患については原因遺伝子の同定が進みわが国の研究者が多大な貢献をしております。しかし、残念ながら、アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などに比べ、病態解明と治療法開発の研究は十分に進んでいるとは言い難いのが現実です。一方、小脳の解剖学、生理学、薬理学など基礎的な理解は非常に進んでおり、やはりわが国の研究者の貢献が大であります。

このような状況にあって、小脳ならびに小脳障害の分子メカニズムと病態生理を解明し、小脳障害の真に有効な治療法を開発するには、臨床医や基礎研究者を中心とし、産業界や行政をも含めて緊密に交流し、連携を進めることが必須であると思われま。この目的のために、2011年に日本小脳研究会が設立され厚生労働省の運動失調症調査研究班と共に活動を続けて参りましたが、2019年に発足した小脳システム研究会と統合され、2021年3月に日本小脳学会が誕生いたしました。この間、国際的にも研究会や学会の活動が活発化し、研究者間の協力、患者会の成長と研究者との連携などが発展しつつありま。治療法の皆無であった神経難病でも治療法が開発されつつありま。

広く小脳と小脳障害・小脳疾患に関心を持つ全ての方々、すなわち基礎研究者、臨床医、産業界・行政の関係者、患者と家族、一般市民に本研究会への参加を求めら次第です。日本小脳学会は皆で力を合わせ、1日でも早く1つでも多く、小脳の基本原理を解明し小脳の病態を克服することをめざしま。

2021年3月吉日

日本小脳学会 理事長  
水澤英洋